

京都・長岡京跡(1)

ながおかきょう

- 1 所在地 一 京都府向日市森本町戌亥、二 向日市鶏冠井町草田

- 2 調査期間 一 一九九九年(平11)九月～一〇〇〇年三月

- 二 一九九二年一〇月～一月

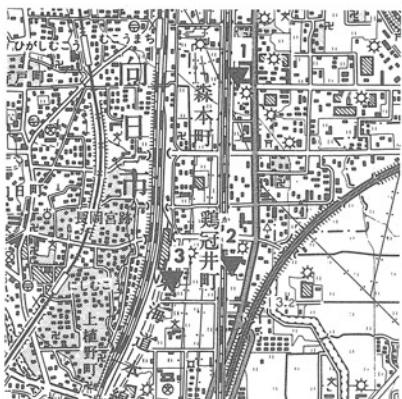
- 三 一九九九年四月

- 4 発掘機関 財向日市埋蔵文化財センター

- 5 調査担当者 一 梅本康広、二 國下多美樹、三 中島信親

- 6 遺跡の種類 都城跡、集落跡

- 7 遺跡の年代 長岡京期(七八四年～七九四年)、戌亥遺跡(一二世紀～一四世紀)



(京都西南部)

二〇〇〇年度に長岡京跡で新たに木簡の出土した調査は右京一件(右京第六八八次調査)で、長岡京市が担当した(次項)。本稿は一九九九年度調査地で現在

遺物整理中の左京二件、一九九二年度調査で本年試料洗浄中に発見された左京一件の報告である。いずれも向日市が担当した。なお、一九九九年度の二件の調査は、木簡も含めて大量の遺物が未整理のため、中間報告であることをおことわりしたい。

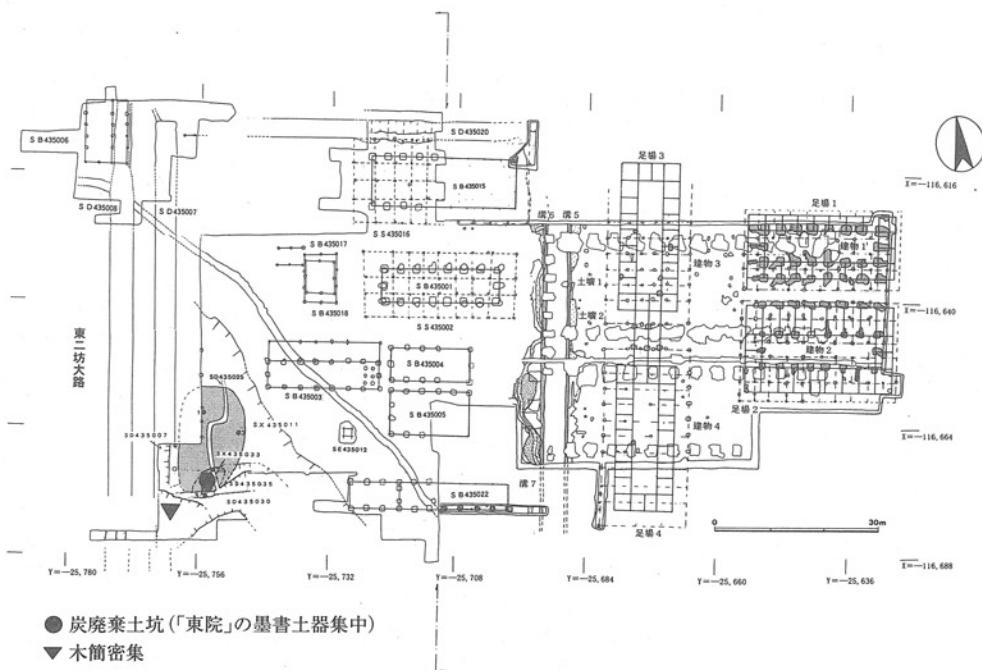
一 左京北一条三坊一・三町 東院跡(左京第四三五次調査)

京都市と向日市の市境をはさんだ敷地に、ビルが建設されることとなり、京都市側を財古代学協会が、向日市側を財向日市埋蔵文化財センターが担当して調査を行なつた。その結果、長岡宮内裏正殿に匹敵する大型建物、および、それに随伴する建物群と付属施設が確認され、これらが平安宮内裏と酷似する建物配置をとることが判明した。また、「東院」の墨書き土器や「東院内候所」の木簡をはじめとする良好な文字資料が出土した。その結果、当遺跡が平安遷都までの一年九ヶ月のあいだ、桓武天皇の仮内裏となつた東院跡であることがわかつた。

東院の内部構造については、正殿、前殿を中心に左右対称形の

「コ」の字型配置をとる建物群が内郭を形成し、周囲には一定の空間領域を有した外郭施設が備わるなどの「内郭構造」をとることが明らかになつた。向日市が担当した調査地は西外郭南半部分に相当する。その内部空間は、①礎石建物や大型掘立柱建物を中心とした空間、②井戸を備えた雜舍群で構成される空間、③川跡のくぼみを利用して流路などがひろがる空間、の大きく三つに区分される。

2000年出土の木簡



長岡京左京第435次(左)・第436次(右)調査遺構平面図

木簡や墨書き土器が出土したのは、西外郭の南西側にある流路及びその周辺である。流路の改修過程では、大量の炭が廃棄されており、中には「いごの羽口」、戸壁などの段台関連遺物や「東完」と墨書き

れた須恵器も含まれている。流路の廃絶段階では、土器・木製品・瓦などが大量に捨てられ、木簡も局所的に一括廃棄されている。

本調査地からは、中世集落である戌亥遺跡にかかる遺構・遺物も多数確認されている。主な遺構として小柱穴約一〇〇基、井戸二基、土壙墓一基などがある。とりわけ、井戸一基からは、瓦器椀をはじめ多数の供膳具類とともに、呪符木簡(未報告)も出土している。

二 左京一条大路・東二坊大路交差点（左京第一九六次調査）

調査地は、二条大路・東二坊大路交差点南西部の左京第一六二次調査（向日市埋蔵文化財調査報告書）一七、本誌第九号の西隣接地に相当する。調査では、二条大路南側溝を確認し、側溝の付け替え（前・後期）があることを追認した（第一六二次調査時は旧条坊呼称により二条条間大路南側溝として報告している）。前期側溝SD一九六五〇は、旧河道を改修したもので、しがらみSX一九六五一を伴う。後期側溝SD二九六五一は、前期側溝の北約六mに位置する東西溝である。幅四・八m深さ〇・五~〇・六m。南肩に丸杭による護岸施設を伴う。埋土は三層で、上層が粘質土、中・下層が砂・砂礫である。中・下層は溝機能時の堆積である。

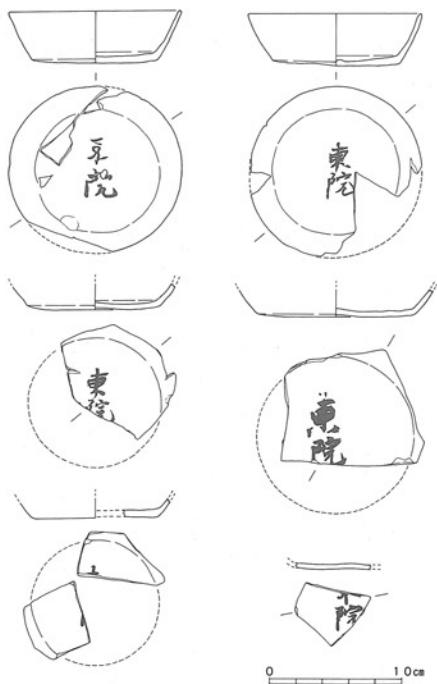
長岡京期の土器類・瓦類・木製品・金属製品・動物遺存体など、

出土遺物の多くは中・下層より出土した。木簡は、凹地に最終的に

溜まつた状況を示す上層より出土した。持ち帰った堆積土の整理作業（洗浄）中に確認したもので、共伴する遺物に長岡京期の土器が少量ある。

三 左京三条二坊一町（左京第四二五次調査）

調査地は桂川の氾濫原に位置し、現地表面の標高は約一四mを測る。長岡京の条坊復原では三条条間北小路、東二坊坊間西小路交差点および、左京三条二坊一町南東隅にある。付近一帯には太政官厨家、造長岡宮使など太政官や造営関係の官衙町が存在したと考えられている。調査は交差点北西部を左京第四二五次調査として実施し（調査面積七八m²）、東半を左京第四二九次調査（本誌第二二号）と



SX435011及びSD435025出土
「東院」墨書土器実測図

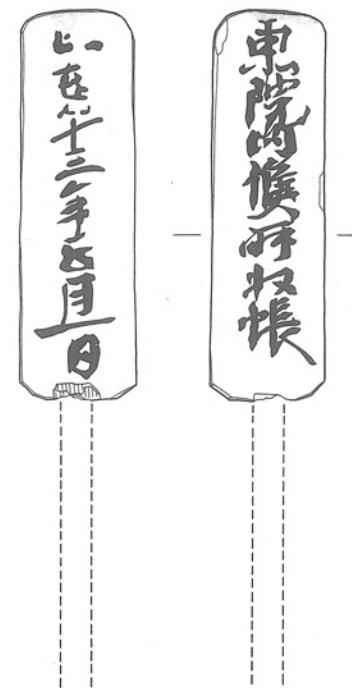
して実施した。

左京第四二五次調査の検出遺構は、三条条間北小路北側溝、東二坊坊間西小路西側溝、土坑一基である。三条条間北小路北側溝SD四二五〇一は、断面形が二段落ち状の幅広の溝として確認した。規

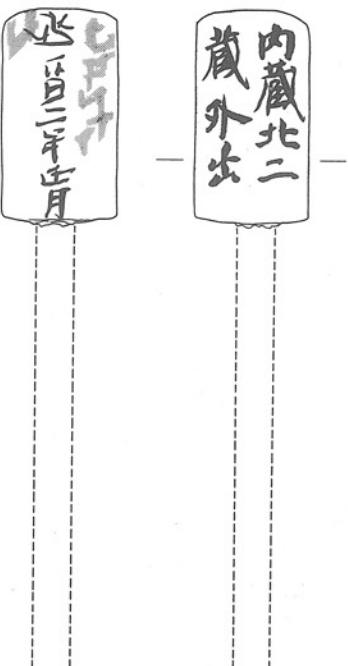
模は幅約二・五m深さ約〇・七mである。埋土は上層の暗灰褐色砂粘質土、下層の暗灰色粘質土の一層に区分でき、下層から多量の遺物が出土した。埋土にプロック状の灰色シルト、黒褐色有機質土などが含まれることから、多量の遺物とともに埋め立てられたことを窺わせる。東二坊坊間西小路西側溝SD四二五〇一との交差点部分の状況は、ともに路面を横断する井桁状に交差することを確認した。溝の規模から、三条条間北小路北側溝は左京城の基幹排水路のひとつとして掘削されたと考えられる。東二坊坊間西小路西側溝は、幅約二・五m深さ約〇・三mの規模である。埋土は、上層が暗灰～暗灰褐色砂混じり粘質土、下層が灰色粗砂である。上層は三条条間北小路北側溝上層と酷似する。

削屑を含めた木簡は、三条条間北小路北側溝SD四二五〇一から二四九点（うち削屑一二二点）、東二坊坊間西小路西側溝SD四二五〇一から三点、両溝の交点部分から三点である。大半が三条条間北小路北側溝の下層から出土した。共伴遺物は墨書土器（「主厨」「厨」「学生」「南備王」「勢平」「讚岐国」「東」など）・土師器・須恵器・黑色土器・線刻土器・墨書人面土器・焼塙壺・土製品・軒平瓦・平

2000年出土の木簡



(4)



(2)

- 瓦・丸瓦・木製品・石製品・鉄製品・錢貨（萬年通寶・神功開寶）・
金属生産関連遺物（炉壁）がある。
- 8 木簡の釈文・内容
- 左京北一条三坊二町・二町東院跡（左京第四三五次調査）
宅地内流路SD四三五三〇
 - (1) • 「始天應元年八月
〔延力〕 (題籤軸) (86)×23.5×8.5 061
 - (2) • 「内藏北二歳外出
〔延力〕 (題籤軸) (59)×31×11 061
 - (3) • □…延暦十二年正月十六日□
〔解申カ〕 (55+175)×41×4 019
 - (4) • 「東院内候所收帳
〔延力〕 (題籤軸) (104)×30.5×8.5 061
 - (5) • □曆十三年正月一日 (題籤軸)
〔解申カ〕 (90)×(9.5)×2.5 081
 - (6) • 「尚侍家染所□秦淨麻呂八月從一日始十一日」
〔未申酉戌亥子丑寅卯辰巳〕 (313×38×4 011)

(7)

「勅」所

(186)×(14)×4 019

(8)

「勅」所

(72)×75×5 019

(9)

×□長『牛』 大和廣立『牛』 二国淨成『牛』

(569)×(32)×6.5 081

(10)

「道河内万呂」
凡鳥万呂」

内藏

091

(11)

「一月九日到着」

内藏

091

(12)

大主鑑真成
長上小縣
佐比弘
少主鑑公成
國□□□

内藏

091

(13)

「。寮仕丁十人」
一人政所
一人市買并大炊米請
一人薪

内藏

091

(14)

「。寮仕丁十人」
一人縫殿
一人油衣所
三人□×

内藏

091

(15)

「。寮仕丁拾人」
一人政所
一人夾纈所
一人御服所
一人油衣

内藏

091

(16)

「。寮仕丁拾人」
一人政所
一人夾纈所
一人御服所
一人油衣

内藏

091

(17)

「五月十一日大主鑑大×」

内藏

091

(18)

「。寮仕丁拾人」
一人政所
一人夾纈所
一人御服所
一人油衣

内藏

091

(19)

「五月十二日大主□大藏真成」

内藏

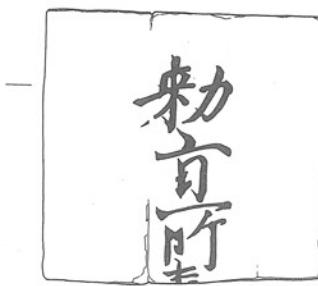
091

(189+117)×(24)×2.5 011

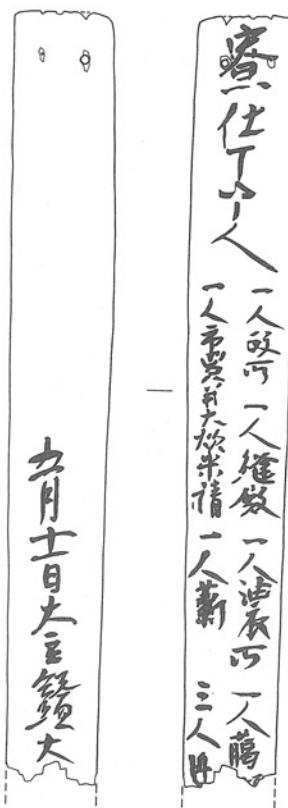
091



(11)



(8)



(12)

(22) □ 秦廣道
〔奏合□煮煮齊〕」

179×(19)×2.5 065

(23) ×□壹 田邊淨海貳
文千依貳

(192)×(25)×7 081

(24) 「〔向參カ〕阿倍野□大廣成
〔中カ〕」

366×(35)×5 019

(25) 茨田福高
〔布勢弟上〕

(122)×(17)×5 081

(26) 布勢弟上
〔中カ〕」

(133)×(8.5)×2 081

(27)

「未戸不一段」

106×17×5.5 051

(1)は題籤軸。天応元年は、桓武天皇が平城宮で即位した年にあたる。(2)は平城宮内藏寮、北列一番目の蔵の蔵出帳の題籤。中務省被管の内藏寮は天皇家の宝物を保管し、供御の品物を調進した。

(28)

・「白米五斗 〔従カ〕」 $144 \times (20) \times 4$ 032

(29)

「二斗五升 〔升カ〕」 $(633) \times 13 \times 4$ 039

(30)

・「一不仕 〔三残カ〕」 $(85) \times (7) \times 4$ 081

(31)

七位

091

南北溝SD四三五〇〇七

・「 太」延暦十二年八月十一日 〔日カ〕〔太太太太 〕・「 太」〔取カ〕 遷 〔太太太太 〕

(題籤軸)

 $(99) \times 21 \times 6$ 061〔 賜五 × × 帳 〕 $(99) \times (45) \times 8$ 061

多数出土しており、墨書き土器「近厨」（近衛厨の略称か）との関わりが注目される。

(1)は内蔵寮官人（大主鑑「名」、小主鑑「名」、長上「名」）の着到札。官職と名のみが記され、氏を記さない。完形品で先端を加工して尖らせる。(2)(3)は内蔵寮の大主鑑が記す寮内各組織への仕丁の配置文である。

年月日を記す木簡は七点出土し、うち四点が題籤軸である。木簡の年紀は、平城京で製作され長岡京にもたらされた題籤軸一点(1)天応元年（七八一）、(2)延暦二年（七八三）を除くと、延暦一二年正月から同一年正月までに限られる。すなわち、東院木簡の製作年代は、東院が臨時の内裏であった時期と合致している。

二 左京一条大路・東二坊大路交差点（左京第一九六次調査）

- (1) 〔酒洒カ〕
□□□□
(90)×(11)×8 081
- (2) ○
□□
(166)×(20)×3 081
- (3) ・「公文所
・「勘史生」
(72)×(12)×3.5 081
- (4) ・「飛驒国×
・「勘史」×
48×(22)×4.5 019
- (5) ・「
乙□×
〔訓カ〕
(216)×54×6 019
- (6) ・「史生谷津万匁」
・「飛驒荒城郡工病并参人壬生マ□万匁」
・「厨請櫻^{ラク}升八合 □□ 洗濯雇女七人料 □
=九月□日□□国益」
・「□□国 益 国 益 □□□」
=
381×37×3 011

三条条間北小路北側溝SD四一五〇一

(7)

・「小丹里人」^{（請飯）}陸升各式升

(15)

「小繩牛勝

(164)×19×3 019

・延暦八年七月廿四日勾廣床

(205)×43×5 081

(109)×(14)×2 081

(8)

・陸拾枚
付丈部繼万呂。」

(16)

「小繩牛勝

(82)×18×6 019

・十一月十日柿本得成。」

(207)×(20)×4 019

158×23×11 043

(9)

・額田部垣守
□ □ 大伴真国

(17)

「□□▽」

225×(38)×4 011



(裏面は天地逆)

(10)

・「く七月十八日進内米貢升」^{一石五斗}
▽

(18)

「く七月十八日進内米貢升」^{一石五斗}

(164)×19×3 019

・「く『延暦六年』『七月十八日進入』^{〔十人カ〕}▽」

225×(38)×4 011

(109)×(14)×2 081

(11)

「く白米伍斗安万呂」

190×20×2 032

(82)×18×6 019

(12)

「十一斤十二両▽」

148×42×4.5 032

(1) 梅本康広、二 國下多美樹、三 中島信親、糸文 清水みさき)

(13)

岳田王。

(63)×(16)×2 019

(14)

甘南備。

(61)×(21)×1.5 081

2000年出土の木簡

